


小田原ならではの
文化によるまちづくり基本計画



令和3年度
評価結果

令和4年12月

小田原市

基本計画の概要

小田原市では、令和2年4月に文化芸術基本法の趣旨及び令和3年9月の小田原市民ホールの開館を踏まえ、市民一人一人が心豊かに希望をもって暮らしていくまちの実現及び文化による活力と魅力あふれるまちの実現のため、小田原市文化によるまちづくり条例を制定しました。

本計画はこの条例に基づき、本市の文化振興施策と文化によるまちづくりに関し、基本方針及び推進を図るための事項を定め、施策の総合的かつ計画的な推進のため策定したものです。

実績評価の方法

1 評価の方法

基本計画では、計画の期間を令和12(2030)年度までとし、施策ごとに目指す姿(2030年度)を設定しています。計画の進行管理として、目指す姿(2030年度)に対し、令和3年度どの程度達成しているかを精査し、実績評価を行っています。

2 評価の基準

以下に示す基準により、実績を評価しました。

評価区分	基準
順調	目指す姿に向け、着実に成果が上がっているもの。
やや順調	今後も継続して取り組むことにより、目指す姿の達成が可能であると見込まれるもの。
取組中	目指す姿の達成に向け、より一層取り組みが必要なもの。
停滞	目指す姿の達成が困難なもの。
未実施	施策に向けた取り組みを実施しなかったもの。

評価結果総括

新型コロナウイルス感染症の先行きが見えない中で、中止となった事業もありましたが、これまでとはやり方を変え実施した事業も多くありました。9月に小田原三の丸ホールがオープンし、整備が完了した歴史的建造物の公開を開始するなど、文化の拠点となる施設でもイベントが実施され、事業数や来訪者数は昨年 비해増加傾向にあります。

施策の進捗状況としては、全14施策のうち、「順調1」「やや順調7」「取組中6」となり、「順調」「やや順調」を合わせると全体の57%でした。現在実施している事業を継続して取り組むことはもちろん、今後実施を目指す事業・内容の見直しが必要である事業について、目指す姿の達成のため、さらなる努力が必要であるといえます。

今後の課題

三の丸ホールは、オープンにともないHPやSNSでも一定の興味・関心が得られていることがうかがえますが、引き続き安定した文化情報の提供に努め、文化活動の拠点として確立するため内容の充実とさらに発信力を高める必要があります。

イベントの実施や交流事業においては、その取り組み方法について、感染症への対策を講じながら柔軟に対応し、事業を進めることが望まれます。また、子どもへ向けた事業については、長く継続的に取り組む必要があるため、画一的にならないよう内容の充実を図ることが重要であると考えます。

さらに、サブカルチャーなど新たな文化の把握と創造、新たな文化活動の担い手育成を積極的に図り、恒常的に文化を創造していく風土の醸成に努める必要があります。

		2030目指す姿	参考指標 (定量的)	目標の方向	R2	R3	R6目標値	2030目標値	R3年度の数値について	R3年度勘案すべき内容	評価	文化政策課の所見	
基本目標 1	施策1	文化を守り、伝える	小田原ならではの歴史や文化・伝統を、市民が広く認知・理解し、愛着を持って大切にするとともに、市民の多くが、その保存や継承に携わり、取り組んでいる。	文化財公開等事業の来訪者数	増	5,500人/年	7,182人/年	6,200人/年	総合計画		順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ R2に比べ、公開している歴史的建造物や小田原城への来訪者数は増となった。 ○ 書籍「小田原の文化財」を改訂し、市の文化財の周知も実施されている。 ○ 今後も継続的に取組を実施していく。	
	施策2	文化資源の保存と活用	歴史的建造物等の利活用が充実し、多くの人が建造物を利用し、訪れ、広く親しまれている。	文化部の管理する歴史的建造物での、イベント等実施回数(日数)	増	未調査	297回/年	96回/年	192回/年	旧松本剛吉別邸 15回 皆春荘 3回 松永記念館 200回(特別展含む) ・収蔵日本画展 ・お茶する、遊ぶ、生活する 一耳庵が愛した記念館 ・近代数記者の書一鈍翁・幻庵・耳庵・夜雨一 ・受贈記念特別展 近藤弘明一幻筆一 文学館 79回(特別展含む) ・北村透谷「楚囚之詩」原本 特別展 ・川崎長太郎自筆原稿「独身返上」 特別展 ・水原秋櫻子 藤田湘子宛書簡 特別展	【イベント参加人数】 旧松本剛吉別邸 623人 皆春荘 110人 松永記念館 7,240人 文学館 1,744人 【内容】 ・建物見学会 ・呈茶 ・マルシェ等	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ 旧松本剛吉別邸・皆春荘はR3の途中から公開再開し、開催するイベントを募集。複数のイベントを実施した。 ○ 松永記念館・文学館では、特別展を開催し、来館者数を伸ばした。 ○ 今後も継続的に取組を実施していく。
				歴史的建造物の入場者数	増	31,115人/年	77,370人/年	93,000人/年	総合計画	松永記念館 11,583人 清閑亭 19,277人 文学館 4,509人 なりわい交流館 38,102人 旧松本剛吉別邸 2,022人 皆春荘 1,877人	小田原市が持つ歴史的資源を積極的に活用した、小田原らしいまちづくりを推進する「小田原市歴史的風致維持向上計画(第2期)」スタート(計画期間R3～R12の10年間)		
基本目標 2	施策1	文化・芸術拠点である市民ホールの活用	市の文化・芸術活動を推進する拠点としての機能が確立され、全市民が一度はホールを訪れて様々な文化・芸術に触れており、さらに多くの人が集い交流が図られている。	市民ホールの入館者数	高止まり維持	0人/年	137,149人/年	50万人/年	50万人/年 総合計画・重点施策	(R4.3.31時点)	R3.9.5オープン	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ オープン最初の1年は、市内の団体に利用してもらう市民優待事業を実施した。 ○ より利用しやすいホールの運営を目指し、利用者の意見を聴取して改善を行った。
				市民ホールでの事業実施回数(日数)	維持	0回/年	433回/年	1,000回/年	1,000回/年	(R3.9～R4.3) 大ホール 104回 小ホール 101回 スタジオ 58回 展示室 129回 ギャラリー回廊 41回	【稼働率】(R3.9～R4.3) 大ホール 54% 小ホール 52% スタジオ 30% 展示室 67% ギャラリー回廊 21%		
	施策2	文化活動への支援	市民自らが文化活動を行うための相談・情報提供等の支援体制が整い、発表などの機会の充実を図られている。	ホールのSNSフォロワー数	維持	0件/年	総数 2,271件	3,000件	3,000件	(R4.8月時点) Twitter フォロワー数 1,072 インスタ フォロワー数 921 Facebook フォロワー数 278	(R4.8時点) Twitterツイート数 1,228 インスタ投稿数 245 YouTubeアップ数 4	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ SNSは複数のツールを開設し、順調にフォロワー数・情報発信数を増やした。 ○ 今後も安定的な市民への情報提供に努める。
			市民ホールHPのアクセス数	維持	0回/年	117,058回/年	90,000回/年	90,000回/年	2021.9.1～2022.9.21のアクセス数		R3年度 市HP文化・芸術ページアクセス数 53,697		
	施策3	文化・芸術に触れる身近な機会の充実	日常生活により身近な場所でも、文化・芸術に触れる機会が創出され、市民の文化活動の充実が図られている。	市の文化事業(展示会等)が、身近な場所で開催された回数(日数)	維持	0回/年	0回/年	15回/年	15回/年		ストリートピアノは、コロナのため中止。 市民団体が、基本計画に沿った取り組みの一つとして子ども向けWSを開催(小田原城アートNOW梅華展 小学生の風車作成WS)	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ アウトリーチはR2に比べて実施回数を増やし、子供向けWSを行う市民団体もみられた。 ○ アウトリーチ以外に、地域での事業がやや不足していた。
			市の文化事業(公演)が、身近な場所で開催された回数(日数)	維持	0回/年	30回/年	55回/年	55回/年	アウトリーチ実施校数 16校30回				

		2030目指す姿	参考指標 (定量的)	目標の方向	R2	R3	R6目標値	2030目標値	R3年度の数値について	R3年度勘案すべき内容	評価	文化政策課の所見	
基本目標 3	施策1	文化を支える地域と人材の育成	地域の伝統行事等を通じて世代間の交流が図られるとともに、人材育成のためのプログラム等が確立し、充実している。	アウトリーチ事業参加児童生徒の満足度 (5点満点)	増	未実施	4.6点	4.3点	4.8点	アウトリーチアンケートより	順調 やや順調 取組中	○アウトリーチに参加した児童の満足度は、目指す姿の達成に向け順調であった。 ○世代間の交流が図られるような取り組みがやや不足していた。	
				小田原民俗芸能保存協会後継者育成発表会観覧者数	維持	開催中止	開催中止	500人	500人		停滞 未実施		
	施策2	多彩な文化の発信	様々なツールを活用した情報発信が整い、市内に限らず広く誰でも簡単に情報を得られる。	SNS等を利用した文化情報発信の件数	増	29件/年	64件/年	36件/年	108件/年	メルマガ@おだわら文化 発信件数 33件 文化レポーターFacebook 発信件数 31件	メルマガ@おだわら文化 登録者数 1,561人 神奈川イベントカレンダー(マグカル)年4回発行	順調 やや順調 取組中	○文化情報発信は順調に件数を伸ばした。 ○情報誌は現在発刊に向け準備を進めている。 ○幅広い情報ツールの安定的な確保と、発信内容の充実が課題である。
				情報誌等の発刊回数	増	0回/年	0回/年	4回/年	8回/年	文化政策課が発行に關与する文化情報誌を想定	R4年度中に文化レポーターによる紙媒体での情報発信を検討	停滞 未実施	
	施策3	市内外の交流の促進	姉妹都市等と、歴史・文化の点においても広く交流が図られている。	国内姉妹都市・友好都市との文化交流事業実施回数	維持	0回/年	0回/年	2回/年	2回/年		交流事業はコロナのため中止。 国内交流について、姉妹都市・八王子市のご当地グルメ・八王子ラーメンに、「下中たまねぎ」を使用したラーメンを期間限定で販売し、食を通じた交流を行った。	順調 やや順調 取組中	○海外との交流は、一部オンラインにて実施した。 ○国内での交流は、経済面で図ることができた。 ○継続的に取組を進めていくが、交流の形は社会情勢に合わせ、柔軟に実施していく。
			海外姉妹都市・友好都市との文化交流事業実施回数	維持	0回/年	1回/年	2回/年	2回/年			停滞 未実施		
施策4	様々な分野・人材・団体等との連携	地域や様々な分野の人・団体と多岐にわたって連携し、文化に触れる機会が提供され、協働して文化活動が行われている。	文化に関する名義後援の件数	増	24件/年	45件/年	50件/年	75件/年			順調 やや順調 取組中	○名義後援の件数はR2に比べ増となった。 ○市民学校の活動人数も増となり、幅広い分野で活動している。	
			市民学校修了生の担い手実践活動人数	増	36人	85人	90人	総合計画	【活動分野】 福祉8人、子ども10人、自然16人、文化5人、地域20人、魅力発信14人、二宮尊徳12人		停滞 未実施		
施策5	産業・観光との連携による魅力の創出	産業・観光団体等と文化資源を活用したイベントや催しが行われ、文化観光が促進されている。	市の文化資源と産業・観光団体が連携して実施したイベント件数	増	未調査	22件/年	22回/年	48回/年	小田原観光協会(小田原市が出資)の実施事業のうち、歴史的建造物等の文化資源を活用して行われたイベント等	カラーテープアート(ハルネ小田原) 14グループ 45人参加	順調 やや順調 取組中	○まち歩きなどで、小田原城や歴史的建造物が経路に入るなど、活用されるケースも増えてきた。 ○産業・観光団体が文化資源を使用した際の広報など、支援を行っていく。	
			一人当たり観光消費額	増	3,408円	3,420円	3,832円	総合計画			停滞 未実施		
施策1	文化を創造する風土を高める	市民自らが文化活動に参加して相互に交流し、文化活動の振興が図られ、文化活動への取り組み体制や支援が確立している。	小田原を文化的なまちだと思ふ市民の割合	増	約7割		約8割	約9割		文化振興審議会における、文化振興策の検討	順調 やや順調 取組中	○文化振興審議会において新たな文化振興策の検討を行うなど取組を進め、目指す姿の達成を目指す。	
			小田原が文化活動をしやすいまちだと思ふ市民の割合	増	約3割		約4割	約6割			停滞 未実施		

		2030目指す姿	参考指標 (定量的)	目標の方向	R2	R3	R6目標値	2030目標値	R3年度の数値について	R3年度勘案すべき内容	評価	文化政策課の所見																
基本目標 4	施策2	デジタル文化の活用	デジタル技術を活用した、リアルとバーチャルが融合した公演が実施されるなど、より広く充実した文化活動が行われている。	文化部内で、文化資源をデジタルアーカイブ化した件数	維持	未調査	4,942点/年	5,000点/年	5,000点/年	<table border="1"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>資料群名</th> <th>点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歴史</td> <td>近代貨幣</td> <td>約4,700点</td> </tr> <tr> <td>考古</td> <td>千代寺院跡出土瓦 (市指定文化財)</td> <td>16点</td> </tr> <tr> <td>歴史</td> <td>内野家文書</td> <td>137点</td> </tr> <tr> <td>歴史</td> <td>常盤家文書</td> <td>89点</td> </tr> </tbody> </table>	分野	資料群名	点数	歴史	近代貨幣	約4,700点	考古	千代寺院跡出土瓦 (市指定文化財)	16点	歴史	内野家文書	137点	歴史	常盤家文書	89点	R5.4創設に向け、デジタルミュージアム事業を展開。 郷土文化館所蔵資料をはじめとした市が有する歴史的・文化的資料の高精細デジタルレプリカ等を作成。	順調 やや順調	○文化資源のデジタルアーカイブ化は、着々と進んでいる。 ○三の丸ホールで行われる事業でも、配信などデジタルを利用した公演が実施された。
				分野	資料群名	点数																						
	歴史	近代貨幣	約4,700点																									
	考古	千代寺院跡出土瓦 (市指定文化財)	16点																									
	歴史	内野家文書	137点																									
	歴史	常盤家文書	89点																									
	デジタル技術を使用し地域に届けられた文化活動の件数	維持	0件/年	11件/年	25件/年	25件/年	三の丸ホール実施事業のうち、ライブや録画で配信を行った件数	取組中 停滞 未実施																				
	施策3	発信力を高める	広く世界に対して、市の情報や文化活動が発信される体制が確立し、参加と交流が図られる。	国外に対し、文化に関するプロモーションの実施回数	維持	0回/年	0回/年	3回/年	3回/年			順調 やや順調	○SNSを利用した情報発信は順調に件数を伸ばした。 ○SNS以外に、どのように国外に向けて文化事業を発信していくか検討が必要。															
				SNS等を利用した文化情報発信の回数	増	0回/年	64回/年	36回/年	108回/年	メルマガ@おだわら文化 発信件数 33件 文化レポーターFacebook 発信件数 31件	メルマガ@おだわら文化 登録者数 1,561人	取組中 停滞 未実施																
施策4	持続可能なまちをつくる	文化活動の推進により、次代を担う子どもの豊かな心と小田原に対する誇りを育むとともに、「小田原ならではの」を感じられるまちづくりが進み、持続可能な社会に向かって推進している。	市民ホールでの子ども・青少年向け事業の実施回数 (日数)	維持	0回/年	22回/年	50回/年	50回/年			順調 やや順調	○子どもへ向けた市民ホールでの事業及び学習は着実に実施された。 ○SDGsパートナーの登録者数も増となっている。																
			郷土の偉人 (二宮尊徳) 学習の実施	維持	25校/年	25校/年	25校/年	25校/年	尊徳記念館に出かけ学習 10校 尊徳記念館講師を招聘 9校 その他 6校	R3年度「郷土読本 小田原」の改訂	取組中 停滞 未実施																	
			SDGsパートナー登録者数	増	142者	192者	260者	総合計画																				